

南仏プロヴァンスの洞窟（8）

聖域としての洞窟：

サントボーム洞窟とサンユシエール洞窟及びサンクロワ岩陰修道院

本多 力 (HONDA, Tsutomu NPO 法人火山洞窟学会所属 東京都在住)

1. はじめに

フランスの石灰岩地帯の洞窟には、ルルドなど有名な巡礼地としてや、聖地としての洞窟が多く存在する。現在は訪れる人も少ないが、今回はプロヴァンスにあるそのような洞窟としてサントボーム洞窟とサンユシエール洞窟の2箇所と、岩陰を利用したサンクロワ岩陰修道院を紹介したい。

2. サントボーム洞窟

サントボーム洞窟は、エクスアンプロヴァンスからニース方面行きの高速道路に乗り、高速道路をサンマキシマンで降りて、南にツーロン方向に向かい、車で一時間弱で行ける。

これはサンピロン山というサントボーム山塊の岸壁中腹の洞窟を教会にしたものです。キリストの死後、迫害を逃れてマクダラのマリアがサントマリドrameールに上陸した後、その晩年に瞑想を行なうために過ごした場所と言われています。5世紀からの巡礼地で今でも聖域です。

図1に示すように16世紀の版画にそれが描かれています。



図1 16世紀の版画 石灰岩のピロン山と樹林帯

駐車場から断崖絶壁の洞窟まで40分歩かなければなりません、かなりの登りです。ここを毎日聖職者が通うのは大変だと思っていたが、関係者の車は断崖絶壁の真下まで車で行けるようです。断崖の真下に

2～3台入る駐車場があり、ここから必要な機材はリフトでチャペルまで持ち上げています。

断崖の下駐車場から望む教会を写真1に示します。



写真1 断崖直下の関係者用駐車場から眺めた教会
建物の右側からリフト用のハンガーが出ている

この敷地は聖域なので、犬を入れるのが禁止されています。途中は巨大な落葉樹（ブナ科）が石灰岩に根を張り、写真2に示す泉もあり水分が豊富なのか写真3のように根に苔むしています。



写真2 中腹にある泉



写真3 石灰岩にへばり付いた苔むした広葉樹の根